

『花を訪ねて： 彼岸花』

松戸・祖光院散策(2022年9月21日(水))

今年の年初計画で、提案されていた「松戸・祖光院」に彼岸花を見に行くことになった。大型の台風14号が来たために実施が心配されたが、幸いまい具合に通過してくれたので、実行にこぎつけた。

「台風一過」とはならず、朝はまだ曇りだ。9時50分に新京成線常盤平駅改札前に、伊藤さん、神田さんと集合した。三浦さんは台風のために「鹿島槍ヶ岳」行きが中止になったため、参加されて写真撮影のため先に行っていると。駅北口を出て「熊野神社」前に出る。そこからの道は狭いが交通量が多く、歩行者(我々)がいると、小型車でもすれ違う時は片方が停まらなければならない、多分車の中で「こんちくしょう！邪魔だ」と毒づいているのではなかろうか。こっちも道の脇精一杯避けているのですよ。駅から15分ほどで「祖光院」正面口に着いた。

本堂の周りは高い木立の林になっていて、その中に赤色、白色などの彼岸花が咲いている、花茎は殆ど満開で丁度見頃だった。また珍しいオレンジ色、ピンク色の花もあった。段々日差しが出てきて花が輝いて見える。彼岸花の植栽地は“トラロープ”で囲われていて、中には人を入れないようにしていた。植栽地は本堂、墓地を取り囲むようにあって、総広さでは高麗の「巾着田」にも匹敵すると思われる位だ。木立に護られていたせいで、台風の通過後なのに倒れている花茎は殆ど無かった。祖光院の住職が平成5年に植え初め、現在では30万株ほどあるという。

平日なのに一般の人でも程々に来ており、大型レンズ付きのカメラを持って人も混じり、お彼岸も近いのでお墓掃除に来ている人達も見受けられた。また、“旗”に引率された年配の人達のグループも来ていた。

11時前にお寺から出発し常盤平駅へ戻り、松戸駅で途中下車する。松戸には北口と南口に「サイゼリア」があるのだ。伊藤さんが用意した地図を頼りに南口の方の店を探す、ここでもうろうろ探し回り、駅から少し離れた所の店をようやく見つけた。早速、アルコール組とノンアルコール組に分かれて乾杯。今日のお話は、三浦さんが「鹿島槍ヶ岳」が台風14号のために中止になったことから始まり、『出発点は扇沢から柏原新道を通って、爺が岳へ向かう』、「数日前朝のTV“土曜すてき旅”で、柏原新道から爺が岳……を放送していた」、「“キレット”は鹿島槍ヶ岳の先ですか」、『鹿島槍ヶ岳から五竜岳への間にあるのは“八峰キレット”だよ』、『穂高から槍ヶ岳の間が“大キレット”だよ』、『唐松岳から白馬岳へは“不帰キレット”(不帰の嶮)』など、小生には縁の遠い高尚なご説明をいただいた。また今計画されている10月初の「那須岳山行」に関連して、三浦さんが『今年の風の会で、茶臼岳から三斗小屋温泉に行くとき、強風のためにロープウェイが停止、宿に訊いたら“ロープウェイが止まって、キャンセルする人はいませんよ”と言われ、“風の会”だから行くよ』と、結局皆さん強風が吹く峠を無事越えて行ったそうです。更に伊藤さん『十数年前、三斗小屋温泉からの帰り道の峰の茶屋付近で、強風に遭い、僅か10m位が大変で這って歩く始末、峠を過ぎたとき3人が眼鏡を飛ばされてしまい、他の人に指摘されてやっと気がつく有様だった』と。今日は色々有意義な山行談義を聞くことができた。

12時40分過ぎにサイゼリアを出て駅へ、三浦さんは千代田線経由で小田急線へ、神田さんは北千住から半蔵門線へ、伊藤さんと小生はJR常磐線で日暮里へ出て山の手線と、各電車に分かれて流れ解散した。

以上 陽田

